

## 県政タウンミーティング会議録

開催日時 令和4年4月28日（木）13:00～15:00

開催方法 オンライン開催

テーマ 今思う、あなたにとっての「しあわせ」を語り合いませんか

参加者 18人

進行役 戸田 千登美 氏

（（公財）長野県長寿社会開発センター 主任シニア活動推進コーディネーター）

### 【総合政策課長 小林真人】

それでは、時間になりましたので、県政タウンミーティングを始めたいと思います。

今日の主題は、今年度長野県において、総合5か年計画を策定してまいります。それに当たって、今回は、シニア世代の皆さんの貴重な忌憚のない御意見を賜ればと思ってお催するところでございます。よろしくお願いいたします。

それでは、最初に知事から一言御挨拶申し上げますので、よろしくお願いいたします。

### 【長野県知事 阿部守一】

はい。皆さんこんにちは。

今日は、県政タウンミーティングということで、シニア世代の皆さんと語り合うということで御参加をいただきまして、大変ありがとうございます。私も今61歳でありまして、シニアの若輩者という立ち位置だというふうに思っています。先ほど総合政策課長のほうからも申し上げたように、今長野県、新しい総合計画を策定しようとしています。ぜひ、皆さんとの意見交換の中で、長野県として取り組むべき方向性や取り組むべき政策のヒントをいただければありがたいなというふうに思っています。

最初、私の今の感じを申し上げますと、県庁の若い職員と、この間少し総合計画に関連して話し合いをしたんですけども、非常に世代のギャップを感じました。例えば、経済成長みたいな話も皆さんも私も、やはり高度経済成長だったりバブルだったり、あるいはバブルの崩壊だったり、いろんないい時もあれば悪いこともあるっていう感じで、いろんな経済環境を経験してきましたけれども、今の20代くらいまでの世代の人達は、ほとんど給料も上がらない経済も発展しないという状況しか経験をしていないので、経済の成長がいいとか悪いとかっていう議論をしても、なかなか実体験としてピンときていないなというところがあります。それと同じように、多分いろんなものの見え方に、今の例えば10代、20代の人達が今の社会をどう見て、あ

るいは将来に何を期待しているかっていうことと、今日集まっていたいただいている皆さん、私も含めてですけれども、多分、見えている状況が必ずしも同じではないんじゃないかなというふうに思っています。そういう意味で、今日シニア世代の皆さんと意見交換をさせていただきますけれども、今後は、若者とも意見交換をどんどんしていきたいというふうに思っています。そういうものはぜひ調和をさせて、なんというか足して2で割る調和ではなくて、しっかりとがらせるところはとがらせながら、県民の皆さんが一つにまとまって長野県の発展を願っていただけるような計画にしていきたいというふうに思っています。そういう意味で、今日はシニア世代の皆さんの見方をぜひ全面に出していただいて、率直な意見交換をしていただければありがたいなというふうに思っています。私も適宜加わらせていただきながら、これからの話合いに臨んでいきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いたします。今日はありがとうございます。

**【総合政策課長 小林真人】**

はい、ありがとうございました。

本日の進行は、長野県長寿社会開発センターの戸田千登美さんをお願いすることになっております。戸田さんよろしくお願いたします。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

よろしくお願いたします。戸田と申します。

**【総合政策課長 小林真人】**

はい、それではお願いたします。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

では、早速始めたいと思います。

今日、司会進行をさせていただきます。長野県長寿社会開発センターのコーディネーターをしております。戸田千登美と申します。よろしくお願いたします。

では、ちょっと堅い感じですので、アイスブレイクを少ししたいと思っておりますけれどもよろしくお願いたします。一つだけ一番始めに皆さんに、オンラインだと画面上で無機質になりますからうんうんと頷く感じはいつもの3倍増しでよろしくお願いたします。そうすると話している側も話そうという気持ちになりますので、どうかよろしくお願いたします。知事もよろしくお願いたします。

そうしたら、少しアイスブレイクで、今日どんな方がどんなところから参加されているかということで自己紹介をしたいと思います。ただの自己紹介だと面白くありませんので、御当地自己紹介ということで、例えば木島平村といえやお米、木島平村の何々ですと、そんな端的な10秒くらいで自分の御自身の住んでいる町、村、市の何々の町と言え何々でそして何々のこれこれですと言う名前を言っていただく、そんな自己紹介でざっと回りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、私の画面の横から順番にいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

### <参加者自己紹介>

#### 【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

はい。皆さん、ありがとうございました。

では早速知事どうでしょうか。長野県内津々浦々というところで、観光巡りをしている感じでしたけれども、オンラインの賜物だと思います。では、早速始めたいと思います。本日の流れですけれども、プレスリリースにも書かれていたように幸せについて語りましょうということです。今日は4人ずつのグループで2回グループセッションを行います。グループセッションの間は、全体共有の時間となりますが、そのような流れを進めたいと思います。お題のほうは、事前に配られているものもありますけれども、「昔と今で幸せの感じ方はどうなの」ということだったり、「次世代に繋ぐ幸せってどんなふうにしたらいいの」ということで進めたいと思いますが、各グループに進行役の皆さんがお一人ずつ入っておりますので、その進行役の皆さんの進行に従って、ワイワイガヤガヤざっくばらんな楽しい話合いにしたいと思います。よろしくお願いいたします。

では、事務局の方、ブレイクアウトルームにさせていただいてよろしいでしょうか。

#### 【事務局】

はい。ではこれからルームにお移りいただきます。よろしくお願いいたします。

#### 【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

はい。ではいってらっしゃい。進行役の皆さんよろしくお願いいたします。

<各グループに分かれて意見交換>

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

はい、お帰りなさい。皆さん戻られましたでしょうか。いかがでしたか。とても盛り上がっていた感じですね。

では、ここでどんな御意見が出たかをまとめなくて結構です。特徴的な意見など、どんな意見が出たかを、グループファシリテーターの皆さん、すみません1分半くらいでお話していただくと思いますが、1グループのAさんからお願いします。

**【参加者A】**

こちらのほうの意見としては今幸せを感じる時とはどういうことかということで、子どもと暮らして楽しい、シニア大学に行っていて、いろんな人と知り合えて、コミュニケーション、仲間といろんなことを話せることがあってワクワク感、こういうのが出てきているんじゃないかなということです。若い頃と現役時代どんなことが幸せだったかっていうことの中で皆さんおっしゃったのが、幸せっていうことを感じなかったっていうことが多かったですね。やっぱり苦しい。そういう意見がありました。ただ1人の方は、仕事の面白さで充実感があったということ、知事から言われたことなんですけれども悪いことがあれば良いこともあると、その代わりに心が自由であったというふうな御意見もありました。

それと、今どういうふうに幸せ感が変わったかっていうことになったら、ゆとりとかができてきて子どもの子育ても終わって、これからあとは人生100年時代生きて行く中で、先ほど言ったように自由になったりいろんなことができるようになったりということですね。それと人とのコミュニケーション、そういう日々生きて行くということが嬉しいということです。以上です。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

はい、ありがとうございます。足元の幸せっていうようなことも出ていたような気がします。ありがとうございます。では2グループのBさんお願いします。

**【参加者B】**

幸せっていうのは男性の皆さんはやはり現役当時、張り合いがあり、それが幸せだったかなというふうにお話を聞いていて感じました。今リタイアをされてから地域での活動、住みやす

い地域での活動に貢献されているということ、またそれもすごく幸せとお感じになっているのではないかなというふうに思いました。あとは、幸せっていうのは社会の変化に適合するっていうのが一番大事。家庭の中の家族のシステムもそうですし、周りの例えばデジタル化っていうのに対しても、それに対応していくことが幸せを見つけられ、幸せを感じる状況になるのではないかなというのを感じましたし、やっぱり元気であること、好奇心旺盛にいろんなことに挑戦されること、それが一緒にお話させていただいた方達もものすごくお元気で、お年寄りとは見えないバリバリさがあったのでまさにそれかなって、それが一番幸せなのかなっていうふうに思いました。もちろんこれからの世代の方達を応援するっていうところを根底に頑張っておられるその姿って私は感動です。お手本です。頑張ります。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

ありがとうございます。ちょうど1分半くらいですね。では、3グループのCさんお願いできますか。

**【参加者C】**

3グループでは、皆さん共通したお話が出たのが本当に不思議でした。御説明しますと、昔と比べると余裕ができていろんな人と携わることができて幸せ感を共有していますと、そういう共有していること自体が幸せ感を感じることです。あと、それを維持するためには自分自身が楽しまないで維持ができないというふうな感じ方をしていると、皆さんおっしゃっていましたね。

本当に素晴らしいコメントをたくさんいただきました。以上です。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

ありがとうございます。本当に自分自身が楽しむことが一番かもしれません。では、4グループのDさんお願いできますか。

**【参加者D】**

若い頃は物に囲まれた充足感っていうものが結構幸せに思っていたっていう方が多くて、それもなんですが、現在は精神的な幸せ感とか、あと物より事っていう言葉もあるように関心が移って来て、精神的なほうや体験することに関心が移って来て、若い頃には気づかなかったり、思っていなかった当たり前だと思っていたことがすごく感謝することによって変わってきたりとか、そういうかたちも幸せの一つなのではないかっていうことで、シニア世代でも、出会いとか触

れ合い、学び合いなどいろいろな方と出会ってきて人生の中で今が一番幸せだっておっしゃっている方もいらっしゃいました。なので、お話していてもとても楽しかったです。以上です。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

素晴らしい。ありがとうございます。すごく物質的なものと精神的なものの違いっていうのは、あるかもしれませんね。はい、ありがとうございます。では、5グループのEさんお願いいたします。

**【参加者E】**

我々は3人グループで、お話をしたんですが、今皆さん幸せですかというところから始まったんですけども、皆さん一同に幸せですということなので、本当にその話を聞いているだけで、加山雄三の幸せだなみたいな感じで浸りながら話ことができました。

やはり若い頃ってお金があって欲しい物が買えた時に幸せを感じ、あるいは行きたいところに旅行ができた時に幸せを感じ、ささやかだけれども仲間と仕事の帰りに1杯やりに行った時、こんな時に幸せだなと思っていたんだけど、今は生活そのものに幸せを感じている、何気ない何でもないことが幸せだなというような話が返ってきています。中には、ウクライナのニュースが毎日ごはん時に流れるので、そういうのを見るだけで今の幸せをひしひしとを感じるなというようなお話が印象的でした。一方で、楽しくやろうというような思いで、自分でそういうコントロールができるようになってきているっていうのが歳を取ってきた経験なのかなというような話ができました。以上です。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

ありがとうございます。そうですね。経験というのはシニアならではのということではあると思いますが、阿部知事いかがでしょうか。皆さんのグループで出された御意見をお聞きして。

**【長野県知事 阿部守一】**

そうですね。いきなり振られたので何を話せばいいのか。それぞれごもっともだなというふうにお話を伺いましたけれども、冒頭若い世代の人達との話をして、私も自分の話をさせてくださいけれども、多分シニア世代の例えば仕事の第一線からリタイアした世代の人達の考えっていうのは、自由度っていうのがかなりあるのかな。余裕だとかゆとりとか自由だと、そういう部分がすごく感じられて、私はまだ知事の仕事をしているので、あまり自由度を感じていない立場なので、うらやましいなと思ってお話を伺っていたんですけども、私自分で学

校が変わったお話をさっきもさせていただいたんですけれども、結構社会的な批判だとか、このルールの上を走らなきゃいけないとか、世の中はこうあらねばいけないみたいなのが強すぎるところに、何とか若い世代の人達あるいは、自分の過去を振り返っても、生きにくさっていうのがあるような気がしますし、その反対でシニア世代の皆さんはそこを乗り越えてきたがゆえに、先ほどもお話を聞いていても多分今のほうが幸せ度を感じていらっしゃる方が多い気がします。そういう意味で、若い人達にもう1回フィードバックをすれば、そこらへんをもっと自由度を増やしてあげるとか、あまり社会の束縛を若い世代に感じさせないようにするとか、プレッシャーを弱めるとか、そういうことが皆さんの先ほどからお話を聞いていると、若い世代に対しての応援としては必要な部分じゃないかなと。むしろ逆にシニア世代がそうした経験を踏まえての思いを若い人達と共有していってもらうことで、ある意味若い世代の肩の荷をもうちょっと軽くしてあげるっていうことが必要なのかなというふうに思ってお話を伺いました。ありがとうございます。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

ありがとうございます。本当にその通りだなと今お聞きしていて思いました。ではそんな1回目の皆さんの御意見、そして今知事からお話がありました内容を受けて、2回目のグループワークに入りたいと思います。では、そんな幸せを感じるというような社会にしていくためには、私達今シニア層はどんなことを伝えたり、伝えたい価値であったり、残したい渡していきたいというようなこと、そしてシニアの役割として、していきたい、その辺りを次世代に繋ぐということで2回目を始めたいと思います。では、事務局の方、ブレイクアウトルームの設定をお願いします。時間は25分です。いってらっしゃい。

<各グループに分かれて意見交換>

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

はい、お疲れさまでした。第2ラウンド終わりましたが、ここからはまた先ほどのように1分半ほどで、多分1分半では足りないくらいの御意見がたくさん出ていたと思いますけれども、グループの進行役の方申し訳ありませんが、またどのようなお話が出たかを少し話していただきたいと思いますが、今度は5からいきましょう。Eさん頑張って。よろしくをお願いします。

### 【参加者E】

まずうちのメンバーで、今の若者世代をどういうふうに見えているかというお話をしたんですけども、必死に見えるですとか、余裕がなさそうとかあるいは、SNSだとかそういう部分にかなり傾斜しているので、人と触れ合っている時間がないんじゃないのみたいな感じの見方をうちのメンバーは今の若者にしていました。いじめだとか虐待だとか昔もあったんだけども今ほど陰湿ではなかったというか、今はそれが生死の問題にまで発展してしまうというようなところがやはり見えて非常に心配な部分だなという意見が出ました。さて、それではどうするかということなんですけれど、やはりコロナという状況もあるんですけど、人と人が直に触れ合って語り合える時間がどうしたって必要なんじゃないですかね。そういうことが大事なんだよということ子どもうちからシニア世代がどんどん教えていかなければいけない。あるいは、日本の良さ長野県の良さ、地元に住たら分からないんだけど、よそから移住してきた人達がなんて信州っていいところなのというようなことも含めて、自分達がそういうところの良さも食事の面も感じながら子ども達の若い世代につなげていく、自覚してもらうというようなこと、それから仕事、家庭の往復だけではなくて、職場と家庭のあいだに何かワンプォイント、人と自由に触れ合える場を提供して、そこへ背中を押してあげるようなことがシニアの役割としては必要なんじゃないかなとお話できました。

### 【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

ありがとうございます。では、4グループにいきたいと思います。Dさんお願いいたします。

### 【参加者D】

はい、先ほどの知事のお話を受けて自由度を増すってということで一番最初お話をして、LGBTのお話とか休暇を取りたいといった時に、上司の方に私も若い頃はそんなに休みなんか取れなかったんだって言われたことがあるというようなお話をしたところ、頭では理解できるんだけど自分達がそうしてきたからちょっとやっかみがあるねとか、そういうお話もいただいたんですが、その中でやっぱり頭を柔らかくして若い人達にもついていかなきゃねとか、相手のしたいことを聞いてあげてどうしたいのかというのを若い人達からくみ上げていきたいというようなお話をもらいました。結構地域で活動されている方がとても多くて、郷土の良さっていうのをこれからも伝えていきたいという方達と、若い世代を交えていろいろな勉強会とかを開いていきたいとかそういう話がありました。あと、ハード面で田園風景を残すとかそういうことも自分達もして行って、これからの世代に今の自然とかも引き継いでいけたらいいなというような話も出ました。以上です。



【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

ありがとうございます。では、3グループCさんよろしく願いいたします。

【参加者C】

3グループのお話をさせていただきます。まず私達シニア世代と私達より高齢の高齢者世代の位置づけとすると、知恵の宝庫であると非常に大切にしなければいけないのではないかということで、私達が持っている知識を他世代、あと広がりをもって次の世代に残していくような取組が大切ではないかというふうな話がありました。一つの例として、核家族のいい例として核家族どちらかという今住んでいる家庭が少ないと思うんですけど、核家族ですと高齢者のお話も子ども達に聞かせることができるし、いろんな意味で昔の伝承ができる。一番問題なのが思春期を乗り越える力を今の若い人達はなかなか携えていないというのが、皆個別の家族になってしまっているというのが原因ではないかなと、そこを何とかする必要があるのではないかというお話が出ていました。あと自然を残したいというようなお話ですね。一番大切だと思うのは、高齢者とシニアの世代も含めてですけど、歩み寄る機会をたくさん作る必要があるのではないかというふうなお話がありました。去年、おとしですかね、シニア大学でも美術大学の学生と交流会があったんですけど、若者と交わる取組をもっとどんどん広めることが大切なのではないかなというふうなお話が出ました。以上です。

【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

ありがとうございます。そうですね長寿社会のほうも今シニアと若者も非常に対話をしようということで、いろんな大学とか若者達と対話をしていますが、対話の方法として等話ですね、等しく話す。どうしてもシニア、話し過ぎたりしてしまう傾向があるということで、時間を同じように使おう、必ず相手に問おうという等話というのが非常に今学び方として大事にシニア大でもやっているところです。ありがとうございます。では、第2グループBさんお願いいたします。

【参加者B】

知事に入っていていろいろ生の話を聞かせていただきました。知事から次の世代に胸を張ってバトンタッチをするのが難しい時代にあるというふうにおっしゃっておられて、私日頃の知事の御尽力には頭が下がります。本当に大変だろうなというふうに改めて思いました。そういう中で幸せっていうのはシニアと若い世代との価値観の違いがたくさんありますけれども、最終的には時間はかかるけれど若い世代にも、もっと政治に関心を持っていただいて、自

分達が参加していくことで住みやすい地域に変えていけるんだよということを、やはり私達はそれを変えていかなければいけない立ち位置だということをすごく感じました。とにかく時間はかかるけれど、これも私達の気持ちを伝えるのは時間がかかりますけれど、やはりシニアの大きな課題だなというふうにお話を聞いていて思いました。努力が報われる社会、そういうふうになったらまた若い方達ももっと頑張る、いろんな意味で努力が報われると頑張れる、またこれからもっとまた後継の世代に胸を張ってバトンタッチができるっていう時代に、自分達の、例えば選挙なら選挙の1票がそこまで影響する動きもあると訴えていかなきゃいけないんだなというふうにも感じました。以上です。

#### 【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

ありがとうございます。私も第2グループに入らせていただいている、やはり価値を押し付けられないとか幸せ感を若者達に押し付けられないというそんな御意見も出ておりました。はい、ありがとうございます。では、第1グループAさんお願いします。

#### 【参加者A】

我々のほうでは、自然を残したいとかそういうふうな話があり、やはり長野という自然がすごい大切なもの、これを後世に残していくというのが大事ではないかということがありました。それとあとは長野県というのは教育県でもあるということで、今若い方がどんどん都会とかそういうところへ出て行っています。そういうところに長野のほうに先進的な農業大学、農業立国でもある長野県を生かしたそういう大学を作って、そこでAIとかバイオとかそういうものを活用した農業大学を作れば、若い方もこちらのほうへIターンとかUターンとかしてくるのではないかというふうな意見がありました。それとあとは伊那のほうなんですけれど、伊那小学校というのは、通知表もチャイムもないというところがあると。これは何かそういうのは指導要領にも出ていないというふうなことがあって、今「夢見る小学校」という映画が流れていると。これは県内各地を回るらしいんですけど、私達のほうには来ていないんですけど、こういうのを全部見せて子ども達にいきいきと過ごせるように活動をさせたらどうかなということと、子ども達にチャレンジする力をつけさせたらどうかなと、そういう学校づくりの取組もしていきたいというふうなこともおっしゃっていました。それとあとは、相談する場ですね。子ども達が何かあったらこういうこと相談したいっていう、相談する場も作っていただけたらということです。あと、開田高原のほうの方はどうしても雪に埋もれている時間とか交通の便が悪い。こういうふうなところを改善すればまたIターンとかUターンの方がたくさん来て子ども達も増えてということがあるんですけど、そういうふうな考え方というものもやっていただきたいな

というところが出ていました。以上です。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

ありがとうございます。各グループの出た御意見を少しチャットにFさん（ファシリテーター補助）が打ってくれていますので、そちらのチャットのほうも御覧いただきながらこのあとのディスカッションをしていきたいと思っております。また戻りますが、阿部知事いかがでしょう。後半の次世代にどのようにというテーマでお話をしましたけれど、今の発表をしたものも含めて知事の御意見もよろしくお願いたします。

**【長野県知事 阿部守一】**

そうですね。まず、1つは長野県らしさという観点で自然を残すという話は複数の方から出ていましたけれど、あえてそれに私が足すと、さっき私も参加したところでも言ったんですけど、これは地球環境問題もそうですし、これだけ借金漬けの国の財政はこのまま引き継いじゃっていいのかっていうところもありますし、あとはロシアのウクライナ侵攻で平和な社会が当たり前であり続けるためにはどうするべきかということ、しっかり考えて平和で自然が豊かでその時代その時代の優先順位の高い政策を、その時々判断で実現できるような財政の弾力性を維持していくっていうことも重要なことというふうに思っています。あとは、シニア世代の知恵の宝庫って話がありましたけれども、その一方で価値観の押しつけは良くないよねということで、ただ日本の社会には結構ディベートが下手というか何となく一方的に議論して勝ち負け的な議論をすることが多いんですけども、ぜひ長野県はシニア世代と若い世代がお互いのことを理解しあい尊重しあいながら、一緒に未来を語る場をどんどん作っていければ、そこを多分若い人世代も触発されるし、我々世代もいろんな学びがあると思うので、そういう場が必要だなんていうふうに感じてお話を伺いました。ありがとうございます。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

ありがとうございます。今、阿部知事からこれから未来を語る場というお言葉が出ましたが、ここから少し皆さんの御意見も自由に全体で共有していこうと思っておりますけれどもいかがでしょうか。持続可能になっていうところもありますが、DさんがいらっしやればSDGsにも取り組んでいらっしやって非常に仕事上お子さん達とも関わっているということもあって、今の未来を語る場そして持続可能な平和な社会であり続けるためにという知事からの感想でありましたけれども。

### 【参加者D】

話していただいたすべてのものがSDGsが入っているのかなと思うんですが、そういう中で、地球規模で考えて地域で活動するシンクグローバリーやアクトローカリーな活動が何か自分達でできればいいなととても思っています。そして子ども達と今コロナもあり中止してしまったんですが、ちょっと前まで国際ユース環境会議っていうのをやっけて、中学生、高校生、大学生そして私達シニアとか大人が繋がって1つの会議をするっていうのをやっけてとてもいい活動だったと思うんですが、そういうような場がやはりこれからできていくと、もっと皆が繋がれるのかなと、思っています。ありがとうございます。

### 【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

ありがとうございます。今日、御参加のシニアの皆さんは本当に地域に根差した様々な取組をされている方が多いと思います。そんな中で自分のやっていることに今日の話を照らし合わせながら、こんなことができるのかなとか多分皆さんもう妄想が上がっていると思いますが、どうでしょう。Gさんも若者の居場所サポートステーションをされていますけれど。

### 【参加者G】

そうですね。先ほど話をしましたけれど、私は新しい学校を作るんだと宣言をしておりました。森保育に繋がる森小学校、森中学校、森高校。本当に新しい縛られない必要なカリキュラムも必要な子ども達に好きなことを好きなだけできるような時間の確保と、そして学力の保証、そのようなことも全部できるようなそんな新しい全く見たことのないような学校を信州教育として、教育県の信州だからできることをやりましょうという感じですね。

### 【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

そんな熱い御意見に我こそは私もと、いらっしゃる方は挙手をしていただいてもいいですが、ないと私が当ててしまいますけれどよろしいでしょうか。若者に繋いでいくっていうところで私達シニアは何ができるんだろうっていう話の中で、私先ほど2グループに参加をしてHさんから非常にシニアならではの御意見をいただきました。肩書きがなくなってただの爺さんになった時、どのように何ができるかっていう中で、Hさんが地域のためにまた弱者のために何かをしていくということが大事なんだというふうにおっしゃっていて、そういう立場でまた何かできることもあると思いますが、Hさんいかがでしょうか。次世代ということも含め未来を語る場をと知事からも出ておりますが。

**【参加者H】**

そうですね。若い人達と交流の場を持つこと、変な話、自分の孫が南アフリカと日本の小学校に行つて、運動会とか学芸会とか日本であれば小学校はほとんど行ってなかったんですけど、南アフリカで、すごく日本的な学校の校長先生とか担任の方もいらっしゃって、そういう人達一步違った角度から見るとまた日本の伝統、私も長野から出ていた時は感じなかった長野の素晴らしさっていうのを戻って来てさらに感じ、ただその中でやっぱり不便だなと思うのがあって、交通、通院の問題だとか買い物の弱者と呼ばれる人達、そういう人達がじゃあどうしたらここで最後まで暮らせる地域を作れるかって、そのことに今私はただの爺さんからそちらのほうに全力で当てさせていただきたいなと思っています。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

ありがとうございます。世代の違いだけではないですね。国を超えても風土も違うし習慣も違うというそんな違いも柔軟に私達も受け入れたりしっかりする機会というのは非常に大事ななと思いますが、いかがでしょうか。Iさん。

**【参加者I】**

私は今、介護の仕事とあと配食をやっているんですけど、実は来年から小規模多機能という施設を立ち上げることになっているんですが、その中で併設して他世代、よくサービス付き高齢者住宅っていうところを併設される方が多いんですけど、私達は他世代で住める、お互いに多世代で補い合う。要は高齢者の方からはいろいろ知恵を教えていただくし、若者からはそういう動けるところでの買い物の支援だったりとかいろんなことの支援っていうところで、シェアハウスの的なものやっていたらなというふうに計画を今のところしています。やはりお互いにあるものを助け合うというか、日常的なところでは一緒に住むっていうことがすごく利点があるんじゃないかなというふうに思って、来年から調整をしようと思っていて、県でぜひそういうシェアハウスと多世代で住めるような場を作るっていうところでの支援をいただけたら、もっと孤立する世帯っていうのが減ってきたりとかするんじゃないかなと思って、ぜひこの機会をお借りして知事をお願いできたらと思っています。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

ありがとうございます。ここで知事が答えたほうがいいのか私は違う人に飛ばしたほうがいいのか迷うところですが。

【長野県知事 阿部守一】

そうですね。今4人の方からいろいろお話があってDさんがおっしゃったように、シネクグローバルやアクトローカーリーでぜひシニアの皆さんと一緒に若い人達も交えて長野県からいろんな新しい取組をやっていきたいなと思っていますが、Gさんがおっしゃっていただいた新しい学校は、私も前から重要だと思っていますので、長野県はいつかそうした学校づくり、県内でも具体的に行っている方達が出てきているので、そういう動きをどんどん広げていきたいなと。ただ、問題になるのは学習指導要領と国のいろんな縛りがたくさんあって、結構私、国のルール自体をもうそろそろ変えてもらわないと困ることがたくさんあると思っています、今まで日本の教育一面的な教育だったのが、先ほどから信州らしいとかいう話もありますし、郷土の誇りっていう話もあるので、もうちょっと教育の中身を地域でもっと自由に考えられるようにしていく必要があるんじゃないかなと思っています。ちょっと学校づくりは一緒に考えたいなと思いますし、Hさんがおっしゃっていた交通ですけれど、国に対しての問題定義ばかりをしています、皆さん応援団になってほしいと思っているんですけども、交通のこれも税金の使い方で政治の重要な役割なんですけれども公共交通に対する国の支援は非常に脆弱です。だから、一般の道路はあちこちにあるにも関わらずバスとか鉄道が貧弱なのが日本の問題だと思っていますので、そろそろ財源の配分の仕方を国が変えなければいけない、私国土交通省ができた時に一時期待しました。旧建設省はいっぱい予算を持っていて、旧運輸省は予算があまりないので、もうちょっと何とかするだろうなと思っていたら何ともならないので、これはそろそろ国民が特に地方の声として挙げていかなければいけないんじゃないかなと思っています。それから、Iさんのシェアハウスは私も大賛成ですので、多分私は歳を取ったらできるだけ妻と仲良く暮らしたいというふうに思っていますけれども、多分必ずどちらかが先に亡くなってしまいますので、その時一人で元気がなくなっていたら施設に入れてもらわなきゃいけないですけれども、元気で一人で暮らすのはやっぱり寂しいし心配だなと思うので、多分先ほどの若者とシニアがもっと交わるほうがシニア世代は知恵を持っているし若い世代は体力があるので、そういう役割分担も意識をしたシェアハウスってこれからどんどんニーズが高くなるんじゃないかと私も思いますので、今脱炭素社会作ろうというので建築物の脱炭素化、ゼッチ化っていうのは県として進めていこうと思っていますし、これは今持続可能な社会を作るためには一定程度コンパクトな暮らし方をしてもらうことがコスト削減に重要なので、そうした総合的な視点で若者とシニア世代と一緒にコンパクトに暮らす、そしてエコな断熱性能の高いシェアハウスを皆で作しましょう。そういうのは総合計画の中で入れられると思うので、隣で総合政策課の人達が皆聞いているので、考えますのでよろしくお願いします。ありがとうございます。

【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

ありがとうございます。すごいですね皆さん、マインドの部分から政策までという幅広い県政タウンミーティングになってきましたが、少しまだ皆さんから御意見をいただくお時間本当にあと数分ありますが、知事入られなかった5グループのEさんが手を挙げています。はい、どうぞ。

【参加者E】

若者との交流という点なんですけれど、今、私、定年後のシニア男性の会ということで、ゆるいおっさんの会というのを仲間とやっているんですけれども、1年前におっさんと高校生・大学生と語り合おうじゃないかということで10人・10人くらいでやったことがあるんですよ。その時に我々は行く前の心構えとして若い人達に絶対説教はしてはならない。俺達の時代はこうだったと言ってはならないというルールで臨んだんですけれども、テーマは長野市の10年後を語りましょうという例をやったんですけれども、どちらかというとい我々シニアはなめてかかっていたんですけれども、なんやかんや話していると圧倒されっぱなしで、若い人が全然臆することなくぼんぼんお話を自由にしてくれて、一方的に受けに回っていたという大変良い機会に我々も認識を新たにしたり、今の若いものはなんていう頭がすっぱり抜けてとても良い会になりました。終わってからも我々の世代もまたやりたいねという意見が出たり、若い世代からもまたこんな機会があったらいくらでも参加しますよというようなお話がいただけたことがとても良くて、なので、こういう機会を例えば学校の授業に、地域のシニアと生徒ががつつり1時間。そんな授業が毎月必ずあるみたいなことになると、とてもいい機会になるんじゃないかなと思いました。以上です。

【ファシリテーター 戸田千登美 氏】

ありがとうございます。時間が来てしましまして、ほかにも今日は皆さん地域文化の伝承と共に子ども達と接している、とつとちゃん公園とか飯田人形劇フェスティバルに関わっている方もいらっしゃる、平和学習、やはり被爆体験の国ということでそのことの活動をされているCさんですか、あとはやはり少し私も食が何というか食べることが大事で皆で笑いながら楽しく食事をしようよというのも一つの幸せを感じる時かなと思います。本当に皆さんもっと交流をしたいと思っていますし、また阿部知事もシニアオンラインで、こんなふう交流を県内ところどころでやり始めているんです。ぜひまたお声がけをさせていただきたいなと思っておりますが、ここからは総括として阿部知事に最後まとめていただこうと思いますので、よろしくお願いたします。

【長野県知事 阿部守一】

どうも皆さんありがとうございます。

まとめるというのもおこがましいので、皆さんの意見はそれぞれしっかり承っておきたいと思えますし、戸田さんはコーディネーター役大変お疲れ様です。ありがとうございます。

今日、私が参加をさせていただいて一番感じたことは長野県のシニア世代は本当に多士済々で、皆さんと一緒に力を合わせれば、本当に若い世代に誇りをもって引き継げる良い社会ができるんじゃないかなということを、皆さんと話して感じさせていただくことができました。本当にありがとうございます。しあわせ信州ということで県もいろんな取組をやってはいますが、今正直な私の思いとしては、幸せの反対側の状況が非常に強い時代になってしまっているというふうに思っています。多分多くの県民の皆さんがどちらかというといろんな意味での不安を感じている時代だと思えます。コロナの問題もそうですし、災害が頻発しています。ウクライナ侵攻で、これが本当に21世紀なのかというような映像を毎日のように見せつけられるというようなことが続いているので、どんどん前向きな話をしていこうというよりは何とか不安を軽減しよう、安全を何とか高めようというところに、正直言って、今県政の力を入れざるを得ないという状況です。とはいえ、未来に向けて前向きな話をどんどんしていかなければいけないと思っていますので、今日いただいた御意見も十分踏まえさせていただいて次の時代に向けた長野県のビジョンと方針を作っていきたいというふうに思っていますので、先ほどシェアハウスであったり学校づくりだったり具体的な話が出たので、そういうこともぜひやっていきたいと思うので、やっていきたいなと思っているんですけども、先ほど少し若者の政治参加の話もありました。やっぱり政治を何とかしなければいけないというか、私は政治家の一人なのであまり私がこういう言い方をすると変かもしれないんですけども、やっぱり例えば私が自分のことだと言いづらるので、昔の田中県政で副知事時代に感じたことを申し上げれば、田中知事、当初圧倒的な県民の支持で当選して、そのあとちょっと問題多いよねということで2回目の選挙の時には落選してしまいましたけれども、これは田中さんの是非は横に置いておいて、私が近くで感じていたことは、知事一人では何もできないということですよね。当たり前ですけど、私も一人では何もできません。やっぱり県民の皆さんが知事にある意味力を与えているというふうに思っていますし、県民の皆さんが望まない社会、あるいはイメージできない社会っていうのはなぜか実現できないと思っています。田中さんの場合は御自分の構想力がすごく進んでいるので、なかなか県民の皆さんがついていけないというところもあったわけですけども、私は人間が想像できる社会は必ず実現できると思っています。その辺の間隔は若い世代とちょっと違うんだと思うのかもしれないですけど、多分皆さんも私も、月に宇宙飛行士が行って、そのうち火星にだって土星にだって行けるんじゃないかなというふうに思



った世代だと思いますし、例えば万博があつて今より来年、来年より10年後確実に、科学は進歩してもっと明るい社会が来るんじゃないかなというふうに夢見ることができた世代だというふうに思っています。今の世代の人達と話してもあまりそういう感覚が実感として持っていないんじゃないかなというふうに思いますので、今時代はかなり、特に日本は一生懸命に働いても給料が上がらないというような足踏み時代に陥ってしまっていると思います。これはなかなか長野県だけここから脱出していくのは難しい部分もありますけれども、先ほどちょっとお話に出ていましたけれど、努力すればもっと将来良くなるよと、そういう社会になるようにぜひ長野県取り組んでいきたいなというふうに思っています。

とりとめのない話になってしまい恐縮ですけれども、今日皆さんから幸せについて非常に奥深いお話をいろいろ聞かせていただくことができ、長野県として掲げる幸せということを考えていく上で大変参考になりました。ぜひ、これからも皆さんのお力をいただきながら県政を進めていきたいと思ひますし、ぜひ各地域で、あるいは各ポジションで皆さんそれぞれ前向きな積極的な活動をしていただいていますので、これからも御健康には、私もそうだけれども、健康がこの歳になってくると一番重要だと思いますので、健康には十分御留意いただいて長野県地域のためにさらに御活躍いただければありがたいなと思ひています。ありがとうございました。

**【ファシリテーター 戸田千登美 氏】**

はい、ありがとうございました。ではマイクを事務局にお返ししたいと思います。

**【事務局】**

戸田さんありがとうございました。それでは、閉会の御挨拶をさせていただきます。

**【総合政策課長 小林真人】**

大変長時間にわたりありがとうございました。今後の計画の策定に活かして参りたいと思ひます。本日は本当にありがとうございました。

**【長野県知事 阿部守一】**

どうもありがとうございました。